

目標ブイの改良について

川越地区消防局（埼玉）

澤田 正和

1 はじめに

当消防局管内には、多くの河川が流れています。河川等で水難事故が発生し、我々消防隊が現場到着した際、要救助者の確認が出来ない場合は、検索を行うために目撃者からの情報を基にした早期の目標ブイ設定が必要です。

従来の設定では、プラスチックブイに救助ロープを結着し、沈錘を水中に投下後、余ったロープを処理する必要があり、設定に時間を要しました。

そこで救助ロープが不要で、尚且つ設定が逸早くできる目標ブイを考案しましたので発表します。

2 構造

今回の改良では、直径23cmのプラスチックブイ上部を縦15cm横9cmの長方形に切断し、U字型に加工した鉄板にストッパー付リードロープを固定してブイに取り付けました。このストッパー付リードロープは市販品を利用し、サイズは、縦16cm横11cm奥行き4cmです。また、リードロープには、水深が分かるよう、1m間隔に印を付けました。リードロープの長さは5mです。

ブイ下部中央に直径2cmの穴を開け、長さ8cmのビニールパイプを取付けてリードロープのガイドとしました。底部には浮力を得るために発砲スチロールを詰めました。

[※構造図参照]

3 使用方法

ストッパー付リードロープのロックボタンをフリーの状態にして沈錘を水中に投下するとリードロープが伸びます。沈錘が着地したところでロックボタンをスライドさせ、設定が完了します。

4 特徴

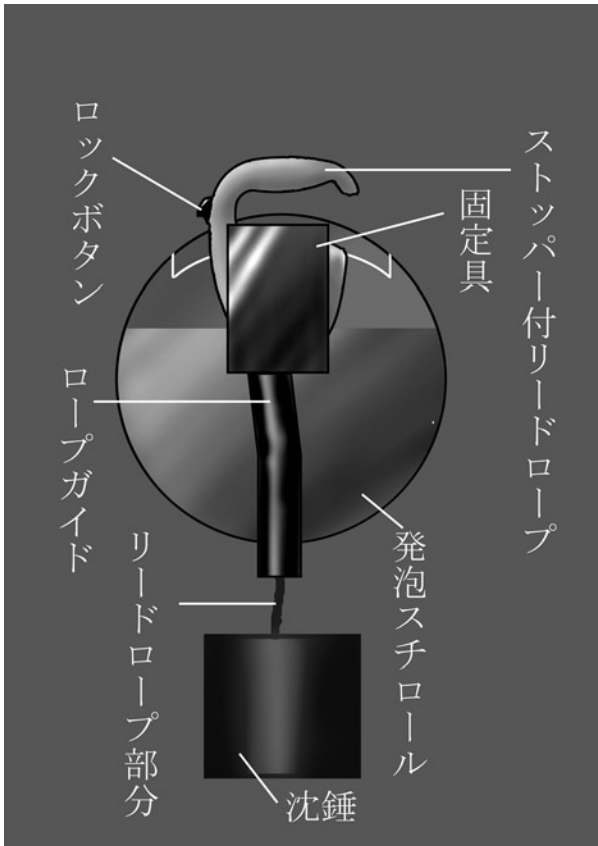
- 1 迅速に設定できる
- 2 コンパクトである

- 3 設定後、ロープの余長処理が不要である
- 4 取っ手がついているので持ち運びが容易である

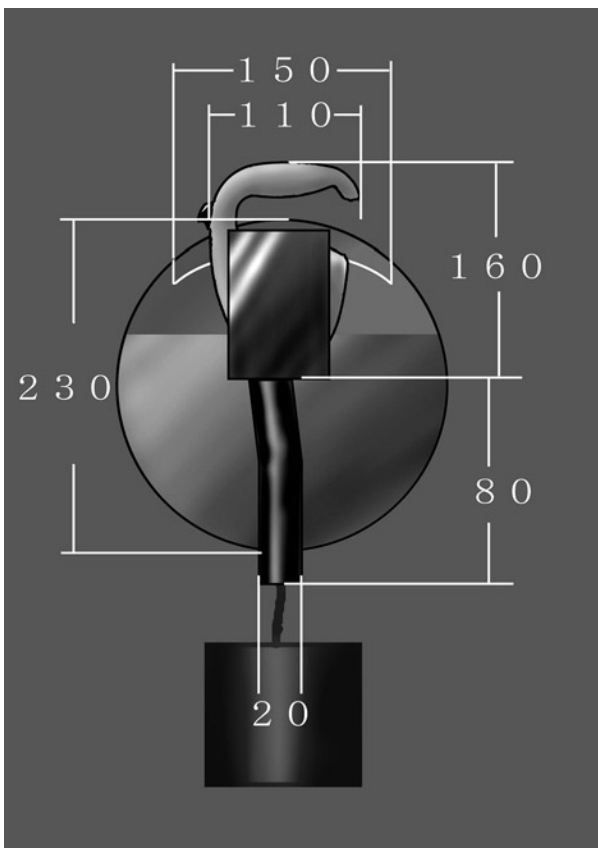
5 おわりに

今回改良した目標ブイの使用結果は、極めて良好で水難事故が発生した際に時間短縮が計れるものですが、さらに改良を加え、より良い水難救助資機材としていきます。

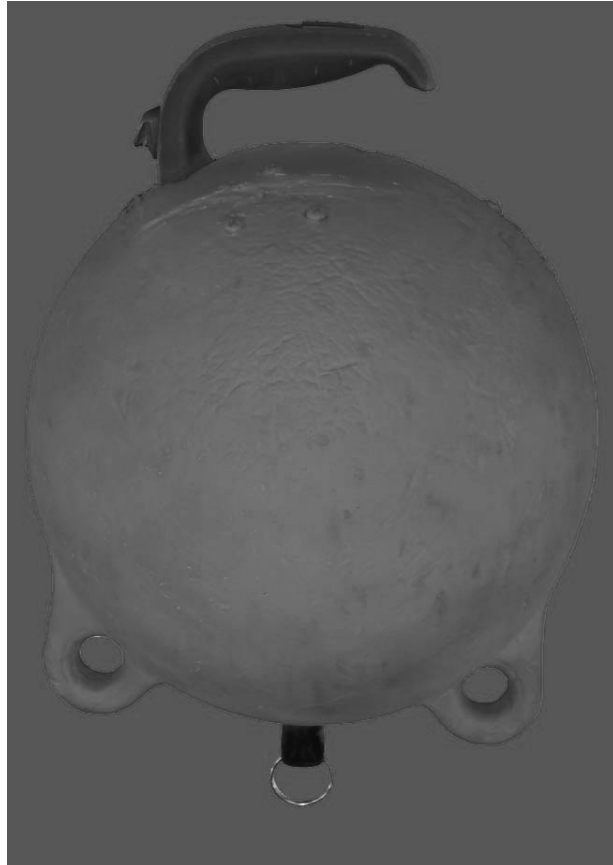
構造図



各部の名称



各部のサイズ



本体



使用している様子